

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院

病院長名	佐藤 公治
所在地	〒466-8650 愛知県名古屋市昭和区妙見町2番地の9
交通案内	地下鉄：名城線八事日赤駅下車 2番出口すぐ バ ス：市バス妙見町行 八事日赤病院停下車

□ 病院の特徴

当院は、歴代院長が首尾一貫した方針で病院の進むべき方向性を定め、歴史と伝統である救急医療、高度医療、災害救護と国際救援、周産期医療、医療連携、研修医教育などを推進することによって現在の病院にまで発展してきました。

特に“研修医は病院発展の原動力”との考えのもと、研修医教育には最重点を置き、専攻医、研修医教育指導体制の充実を図ってきました。

□ 研修プログラムの特徴

当プログラムでは、日本でも有数の高度な専門性を有する一流施設と連携し、高い志を持つ産婦人科専攻医が研修するために最適な環境を提供しています。基幹施設である日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院は、日本産科婦人科学会の卒後研修指導施設であり、かつ日本周産期新生児学会の基幹研修施設（母体胎児部門）、日本婦人科腫瘍学会の専門医研修施設の認可も受けており、さらに愛知県指定の総合周産期母子医療センターも担っており、周産期、婦人科腫瘍を中心とした幅広い研修が行えます。さらに周産期医療に定評のある日本赤十字社医療センター、婦人科腫瘍の専門施設として東海地区を代表する愛知県がんセンター中央病院、不妊治療において全国から患者を集める浅田レディースクリニック、婦人科内視鏡治療に定評を持つ豊橋市民病院、子宮鏡、内視鏡治療をはじめ地域に密着した患者にやさしい治療を目指す豊田厚生病院と連携しており、産婦人科のすべての分野でトップレベルの医療に触れることが出来ます。

■ 研修スケジュール（例）

専門研修 1～2 年目

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院産婦人科（周産期、婦人科腫瘍、女性ヘルスケア）

専門研修 3 年目

プログラム統括責任者と相談して、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院産婦人科の専門研修施設群各施設の特徴（腫瘍、生殖医学、腹腔鏡下手術、周産期医療、女性のヘルスケア、地域医療）に基づいたコース例に示したような連携施設での研修



□ 主な連携施設

愛知県がんセンター、浅田レディース勝川クリニック、浅田レディース名古屋駅前クリニック、愛知厚生連豊田厚生病院、日本赤十字社医療センター、豊橋市民病院、友愛医療センター、大垣市民病院、りんくう総合医療センター、藤田医科大学ばんだね病院

□ メッセージ

産婦人科部長・産婦人科 PG 責任者/産婦人科部長 加藤 紀子

当院の産科は平成 21 年 4 月、愛知県内で 2 番目の総合周産期母子医療センターに認定され、重症母体搬送やハイリスク妊娠の管理に力を注いできました。母体急変時の初期対応や救命処置を学ぶ J-CIMELS 講習会を院内で開催し、スタッフ全員が安全な周産期医療の提供に努めています。近年は麻酔科と連携し、硬膜外麻酔を用いた分娩（いわゆる無痛分娩）も導入し、患者さんのニーズに合わせた多様な分娩スタイルを提供しています。24 時間体制の中で、生命誕生の瞬間に立ち会えるやりがいは何物にも代えがたいものです。



婦人科では、腹腔鏡やロボット支援手術を含む低侵襲治療を積極的に導入し、子宮筋腫や卵巣腫瘍などの良性疾患から婦人科がんまで幅広く対応。緊急手術や化学療法、放射線治療、がんゲノム医療など多職種連携のもと最先端の治療を提供しています。救急外来との連携も密で、24 時間体制で女性の健康を守る医療を実現しています。

当院は“忙しいけれども確実に力がつく”職場です。多様な症例や高度な医療設備、経験豊富なスタッフから学べる環境は、産婦人科医を志す皆さんにとって貴重な経験の宝庫となるはずです。

新しい命の誕生を支え、女性の一生に寄り添う医療の最前線で、ともに成長しませんか。

□ 募集要項

・採用予定人数	3 人
・給与／月額	3 年目 平均約 750,000 円／月
・当直回数／月	診療科によって異なる
・当直料／回	診療科によって異なる
・その他	
・応募連絡先	担 当 者 教育研修管理課 電話番号 052-832-1121 E メール education@nagoya2.jrc.or.jp